

海洋島

第10巻 第1号 (通巻55号)

東京都小笠原水産センター

2008年6月10日発行

〒100-2101 東京都小笠原村父島字清瀬

04998-2-2545 Fax. 04998-2-2546

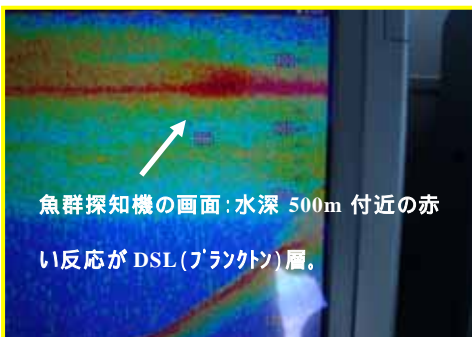
不思議な「生き物」がいっぱい！！

新しくなった「興洋」にはワープウインチと呼ばれる機器が装備されています。船の後部デッキ上に設置されていますが、普段はシートに覆われているため、直接目に触れる機会は少ないかと思えます。このウインチには全長1,500mのワイヤーと、その先にLCネット(開口部約7m×7m、全長26m)と呼ばれる、遊泳力のある幼稚魚を採取するための専用の網が一緒に巻かれています。



図1 左:ワープウインチ 右:LC ネット

小笠原の沖合いでは、日中、水深500m前後にDSL層と呼ばれるプランクトン層が形成されています(下の写真は、魚群探知機に映ったDSL層。ここにはプランクトンを餌とする、小さな魚なども集まってきます)。



LCネットは、この小さな魚等を採取するため、層の下まで沈めます。ネットには水深計が

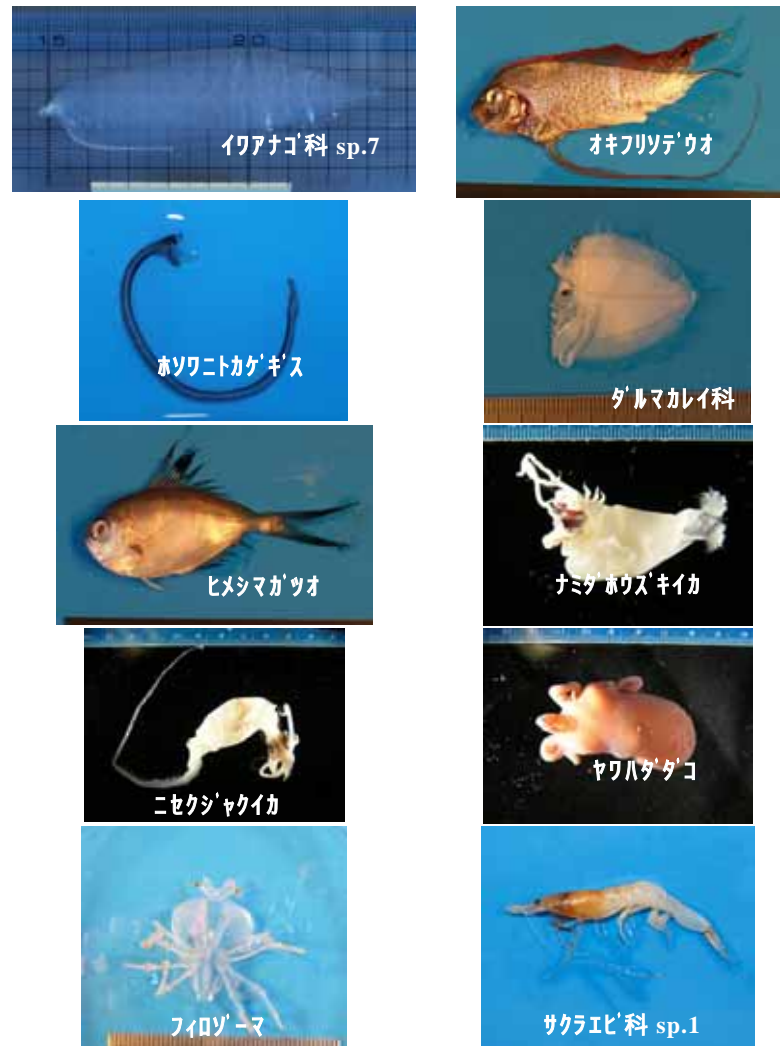
装着されており、常時音波で船上に水深を知らせてきます。まずワイヤーを800mほど繰り出すと、ワイヤーの重みにより、ネットは徐々に沈んでいきます。目的の深度まで沈んだら、2ノット前後で曳航、その後ワープウインチでワイヤーを巻き上げるという方法を取っています。

網を上げると、コットンエンドと呼ばれる部分には、深海に住む生き物が多数入っています。今までの調査では、魚類は、エソの仲間を含む30種。甲殻類はサクラエビ科など5種、頭足類は11種が確認されています。なお頭足

類の査定は、ダイオウイカの調査で父島によく来島されている国立科学博物館の窪寺先生にお願いをしています。普段目にするのではない、深海の不思議な形をした生物は、私たちに驚かしてくれます。

また、採取された魚類の中には、メカジキの胃の中から見つかったものもあり、日中水深500m付近ではプランクトンを基礎とした食物連鎖が成り立っているのではないかと想像されます。最近では、人工衛星の情報をもとに海面の色から植物プランクトン量を推定しカツオ漁場を予測したりする技術が開発されていますが、深海の場合は、まだまだ未知な部分が多く、今後、定期的な調査を継続し、解明していきたいと思えます。

「LC ネットで採取された生物」



頭足類の写真は、窪寺先生より提供